

平成 30 年度 第5学年 授業改善推進プラン

	課題(児童の実態、学習状況、指導の実態)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情を叙述に即して読み取れる児童は比較的多いが個人差がある。 一文が長い、主語と述語が合っていないなどの文を書く児童が多い。 学習した漢字が定着していない児童が多い。また、学習した漢字を日常的に使うことができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点を提示し、必要に応じて教科書にサイドラインを引かせたり、友達と確認する機会を与えたりして、意識して文章を読み取る環境をつくる。 推敲する時間を設け、「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について意識させるようにする。 学習した漢字を平仮名で表記した場合は、その都度、漢字に直させる(ノート指導、作文指導など)。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 知識として必要な用語などに落ちや抜けがある。 単元(小単元)の終末場面で学習問題に対する自分の考えを導き出す際、それまでに調べて分かった社会的事象の羅列となり、社会的事象を関連付けたり、総合させたりして考えることができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習得しておかなければならない最低限必要の用語や語句をリストアップし、日々の授業で意図的に指導する。 小単元の終末場面では、調べたことを整理し、そこから考えたことを友達と交流する時間を設けるとともに、初めの学習問題に立ち返ってまとめるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の技能はある児童が多いが、自分の考えや解決方法などを周囲に伝える数学的な表現力に課題がある児童が多い。 相手の考えを最後まで聞いたり、全体で考えを深めたりしていくことに課題がある。 1学期の学習状況より、図形領域に関する理解や技能が高い児童が多い。逆に、量と測定(量感)に苦手意識がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> まずはノートに自分の考えを表現できるよう、見通しと書く時間の確保を大切に授業を行う。 児童が互いの解決方法や考えにすすんで関わり「共有」できるよう、教師は児童から「引き出した言葉」を明確にし、発問を工夫して話し合い場面の充実を図る。 どの児童も主体的・対話的に学習に取り組めるよう課題・教材・導入を工夫し、解決に必要な言葉を共有し、どの児童も発言できる機会ももてるよう授業スタイルを工夫する。 量感を育てるため、普段扱う数値や単位を「どのくらいなのか、体や他のもので表現すると」などの問いかけを常に意識して授業を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や調べ学習に意欲的に取り組む児童が多い。 理科に置ける問題解決学習の流れが身に付いてきた。特に考察では、「実験結果から分かること・予想との比較・次に行う実験」などについて、自分の考えを積極的に表現する力が高い。 実験に夢中になると、「何を調べるために、どのような実験をしているのか」を忘れてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な教材を用意できるように準備する。実物の用意が難しい単元は、ICT教材を効果的に活用する。 考察をより深いものにするため、グループの中で考えを交流させる時間を取り、実験の結果からどのようなことが考えられるかを話し合いの中で深めていけるようにする。 一つの実験が終わるたびに、「何のために実験をしているのか」問いかけるようにする。様子を観察し、段々とその問いかけを減らしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 高学年らしく響きのある歌声で歌うことができるようになってきた。 基本的な演奏の能力は高い児童が多いが、音楽表現を自分で工夫する力がまだ弱い児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の歌声に自信をもち、楽しんで歌うことができるように児童の表現の工夫を取り入れて合唱をする。また、より力強い歌声となるように発声指導を工夫する。 具体的な表現の仕方を少しずつ指導していったり、児童同士で表現の工夫を出し合っていく活動を取り入れたりする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 色や形の良さや美しさを感じながら活動できている。 授業中の問いかけや、友人の表現に対して反応が少ない。文章で書くことはできる。 挨拶を自分から行えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を積極的に行い、感じたことをお互いに話し合ったり、表したことを見せ合ったりすることを通して、お互いの考えや表し方の違いに多く触れられるようにする。 こちらから積極的に挨拶し、あいさつをする大切さを伝えていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対する意欲がとて高い児童が多いが、苦手意識がある児童も数名いる。 学習の課題や自分のめあてを意識できていない児童が多い。 ボール運動のように意欲的に取り組む領域もあれば、苦手意識が高い鉄棒運動のように意欲が低下する領域もある。 スポーツテストの結果より、男子はソフトボール投げ、女子は20mシャトルランが全国平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、その運動の「楽しさ」を伝え、意欲的に取り組めるように声かけを行う。 振り返りカードを活用し、授業を振り返り、「何ができて(分かって)、何が次の課題なのか」明確にできるようにする。また、授業の終わりには振り返りの時間を設ける。 授業では「体づくり運動」「ボール運動」に重きをおいて指導にあたる。また、授業以外でも外遊びができるように声かけを行う。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 初めて行うことに興味・関心があり、調理実習、裁縫実習ともに意欲的に取り組んでいる。 技能の習得には意欲的であるが、個人差が大きく、特に裁縫では個人指導が必要である。 学習したことを生活の場面に生かすためにどうしたらよいかを考えるのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに協力し、確実な技能の習得がなされるように、ペア・グループ活動を取り入れる。 誰もが分かるように拡大教材や映像教材を使用したり、実践的・体験的な活動を通して達成感を得たりすることによって、実生活に生かそうとする見通しをもてるようにする。 学んだことを家庭でも実践できるように、宿題等を工夫する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をもつことはできるが、友達の考えを受け入れて高め合っていくまでは至っていない。 資料では、それぞれの課題について考えることができるが、実生活に活かそうとする児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見を引き出すことができる教材を用いたり、それぞれの価値観を認め合う雰囲気を作ったりする。 「ねらい」に向けて、的確に授業展開が行われているか検証し、児童が実生活で活かすことのできる教材選定や教材研究に取り組む。